

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

佐賀県

学校名

武雄市立東川登小学校

人権課題

子ども

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年・職員・保護者・地域の方

目標・人権教育のねらい

人権教育に関連する内容の絵本作家の方に直接話を聞くことでともたち友達を大切にする心を育てる。

実施した内容

- ・数々の絵本作家である きむらゆういち氏に来校いただいた。「あらしのよるに」の誕生秘話や、物語の中に描かれているヤギとオオカミの触れ合いから、本当の友情とは何かについてお話しいただいた。
- ・職員、保護者、地域の方に向け、きむら氏に「風切る翼」の読み聞かせをしていただき、人間として何が大切か、子ども達に何を伝えていくべきかを教授いただいた。

工夫した点

- ・本人が来校される前から、どの学級でもきむら氏の著作の読み聞かせをしたり、玄関ホールに「きむらゆういちさんコーナー」を作ったりして、当日本人の話に子ども達がより興味や意欲をもって聞けるように工夫した。
- ・事前にきむら氏に講演で求める内容を伝えていた。「人権を大切にするってどういうことだろう」という内容を伝えていたことで話の内容が絵本の世界と相まって人権教育の核となり得ることにつながった。

他教科との  
関連

○全学年 国語「物語」単元

事業成果

- ・知識的側面では、絵本作家の方に直接来校していただき話を聞いたことで、作者が物語をどんな思いで作っているのかを知ることができた。
- ・価値・態度的側面として、相手の気持ちに立って考えることが何より大切だということを理解し、今後自分たちが行動として表していこうという意欲を高めることができた。
- ・技能的側面では、他者との違いを認め合い、対等で豊かな関係を築こうとする技能を高めることができた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

佐賀県

学校名

武雄市立東川登小学校

人権課題

高齢者・障害者

対象学年・  
取り扱った教科等

4年 総合的な学習

目標・人権教育のねらい

車いすの乗車・介助体験、疑似体験用具を装着しての高齢者の日常生活動作を疑似的に体験することにより、障害者や高齢者の方々が困っていることを知り、障害者や高齢者の気持ちを考えた介助方法、高齢者とのコミュニケーションの取り方などを体験的に学ぶ。

実施した内容

車いすの乗車や介助体験、疑似体験装具（ヘッドホンや特殊眼鏡、手足の重りなど）を装着しての高齢者疑似体験をすることにより、障害者や高齢者の不自由さを知り、サポートする方法やコミュニケーションの取り方などを考えることができた。

工夫した点

車いす体験では障害者の立場になって乗車したり、また障害者の立場になってサポートしたりする両方を体験することを通して障害者不自由さを考えた上で自分にできるサポートについて考えられるようにした。また、サポートする上で、声かけなどコミュニケーションの大切さに気付かせるように指導を心がけた。

他教科との  
関連

道徳「点字メニューにちょうせん」〔勤労、公共の精神〕

事業成果

- ・知識的側面としては、調べ学習や体験学習を通して、高齢者や障害者の方々がどのようなことに困っているのか、どのような支援の仕方があるのかを学ぶことができた。
- ・価値・態度的側面としては、「自分が思った以上に足が不自由な方やお年寄りの大変さが分かった」「お手伝いをしてくれる人の優しさがうれしかったので、町で障害者や高齢者を見かけたら、自分から声をかけてサポートできる人になりたい」など、自らが体験したことによって新たな気づきや心構えを持つことができた。
- ・技能的側面として、高齢者との交流会を通して、どんな交流会にするか、どのようにコミュニケーションを取ると良いかなどを考え、進んで声をかけたり説明したりしながら行動することができるようになった。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

佐賀県

学校名

武雄市立東川登小学校

人権課題

同和問題

対象学年・  
取り扱った教科等

6年・社会

目標・人権教育のねらい

○平安時代の貴族たちが「わざわい（ケガレ）がうつる」という考え方をもとに特定の人を排除していたことを理解する。【知識的側面】  
 ○現代のわたしたちの生活の中にも知らず知らずのうちに染みついており、差別につながりかねない不合理でないものに気づく。【価値的・態度的側面】  
 ○現在も残る迷信や慣習について、自分自身で判断して行動しようという意識をもつことができる。【技能的側面】

実施した内容

平安時代の貴族のくらしを調べる中で、貴族の日記を提示し、わざわいを取り除いてくれる人々がいたことを紹介した。わざわいを取り除いてくれる人々について話し合うことで、今の自分たちの生活や慣習とのつながりについても考え、どう向き合っていけばよいのか議論を深めた。

工夫した点

貴族の日記を提示し、当時の貴族のくらしについて現在のくらしとの違いに気づかせるようにした。その後、現在も残る迷信や慣習について触れ自分だったどうするのかを考えさせた。

他教科との  
関連

道徳・特別活動

事業成果

- ・知識的側面として、平安時代のくらしを調べることで、特定の人を排除していた事実を理解することができた。
- ・価値的・態度的側面として、今の差別につながるような内容に気づき、差別をなくすために行動しようとする態度を身に付けることができた。
- ・技能的側面として、平安時代の貴族のくらしを調べることで、いろいろな人の立場にたって考えることの大切さを理解し、差別や偏見を見極めようとする技能を身につけさせることができた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

佐賀県

学校名

武雄市立東川登小学校

人権課題

外国人

対象学年・  
取り扱った教科等

5、6年・外国語

目標・人権教  
育のねらい

○相手の立場や心情を受け止めながら、協力して物事に取り組もうとする心情を養う

実施した内容

○ALTからの質問コーナー  
○「わたしのセリフ」発表会

工夫した点

○導入で、ALTからの質問コーナーを実施し、外国の文化について紹介してもらう時間を設定した。  
○「わたしのセリフ」発表会では、モデル文を見ながら「わたしのセリフ」を作成し、音読の練習をした。練習をする際には、ALTや友達と協力して音読の練習を行った。

他教科との  
関連

社会科・特別活動

事業成果

- ・知識的側面として、外国の衣食住についてALTからの質問コーナーを実施することで異文化についての理解を深めることができた。
- ・価値・態度的側面として、ALTや友達と協力して音読の練習を行うことで、相手の立場や心情を受け止めながら協力して取り組もうとする態度を育成することができた。
- ・技能的側面として、外国の文化に触れてきたことで、外国人を含めた相手の立場や心情を受け止めて、協力する心情が身についてきた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

佐賀県

学校名

武雄市立東川登小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

5、6年・特別活動

目標・人権教育のねらい

- いじめの特徴について、理解する。 【知識的側面】
- いじめの行動が、なぜ間違っているのかわかる。 【価値的・態度的側面】
- いじめと、けんかやふざけの違いを判断することができる。 【技能的側面】

実施した内容

いじめの定義と特徴をおさえた上で、具体的な事例を提示し、グループで話し合いながらいじめか、いじめではないかを判断し、その理由も出させた。具体的事例の一つとしてLINEトラブルの場面を提示し、LINEのみならずスマホやゲーム、パソコン等を活用したインターネットによる人権侵害についても考えさせた。

工夫した点

導入で「いじめに関するアンケート」の結果を提示した。学級の間みんながいじめはいけないことだと思っているが、どんなことがいじめにあたるのか分からないと回答した児童が一定数いることを認識させるようにした。その中の、具体的事例の一つにインターネットによる人権侵害があることを伝え、LINEのみならずスマホやゲーム、パソコン等を活用した日常生活場面を考えさせることで、自分の課題として捉えさせるようにした。

他教科との  
関連

道徳

事業成果

- ・知識的側面では、SNSをはじめインターネットには、便利さの裏側には危険なことが多く潜んでいることを知った。
- ・価値的・態度的側面では、子ども達のルールやマナーを守りながらインターネット等を利用しようとする態度が育った。
- ・技能的側面では、日常生活のネット社会の中に人権課題が潜んでいることを認識し、自分の課題として考えさせることができた。情報化社会において正しいインターネット使用についての技能を高めることができた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

佐賀県

学校名

武雄市立東川登小学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年・職員・保護者・地域の方

目標・人権教育のねらい

- ・ 性的指向や性自認に関する人権課題について知り、日常生活に存在する差別や偏見について、関心と理解を深める。
- ・ 他人事ではなく、自分事としてとらえ、差別を許さない意思や態度を育てる。

実施した内容

- ・ 育友会主催での講演会の取り組み（教職員・保護者・地域住民対象）  
「すべての人が自分らしく生きる～多様性と学校・家庭・地域」  
儀間由里香さん（Take it 虹） 内容；L G B T s
- ・ 質疑応答、意見交換。

工夫した点

- ・ 子どもたちを取りまく大人に対して、性的マイノリティに対する差別や偏見の実態や正しい情報を話してもらい、人権教育への理解や啓発を図った。
- ・ 職員研修としても行い、日常生活の中で差別や偏見をとらえるための情報源とした。

他教科との  
関連

- ・ 1年（学級活動）「自分らしくていい」
- ・ 4年（保健）「育ちゆく体とわたし」

事業成果

- ・ 知識的側面では、性的指向、性自認の多様性について、地域、職員、上学年に講演してもらったことで、それぞれが正しい知識を得ることができた。
- ・ 価値・態度的側面では、多様な考え方があることを知り、いっそう相手の気持ちを考えようとする態度が身についた。
- ・ 技能的側面では、自分の考えを持ち、全体で交流する経験をしたことで、今後どのようにしていけばいいのか、具体的に自分の課題として考えることができた。